学術変革領域当事者化行動科学
研究成果（2026 年 5 月まで）

・論文について、計画研究代表者には二重下線、計画研究分担者には一重下線、公募研究代表者には波線、corresponding author には名前左に＊印を付しています。
・領域設定期間より前の研究成果など、本研究に直接関連のない成果発表等は除いています。
・令和 8 年 5 月末までに掲載等が確定しているものに限定しています。

【B01】法則性／物語性・当事者化行動基盤チーム

計画研究

■熊谷　晋一郎（研究代表者）

雑誌論文（英文）

Kumagaya S, Ayaya S, Goldfarb KE: Uncommon Sense: Tōjisha kenkyū and the co-production of scientific knowledge in Japan. Transcultural Psychiatry. 2026. (in press).

Saito K, Yatsuka Y, Kawakami A, Kumagaya S, Akiyama N, Okazaki Y, Murayama K, Ishikita H: A DNA2 mutation in the ATP-binding motif identified in a diagnostically unresolved individual. Frontiers in Molecular Biosciences, 12, 1706392. 2025.

Harada N, Pellicano E, Kumagaya S, Ayaya S, Asada K, Senju A: I don’t think they understand the reality of autism: The lived experiences of autistic adults in Japan. Autism, 29(11), 2715–2726. 2025.

Kumagaya S, Matsuo A, Yui N, Ayaya S, Kawahara T, Kashiwabara K, Koto G, Kamioka H: Fostering employee engagement and mental health: Impact of psychological safety, humble leadership, and knowledge sharing in the Japanese public sector. International Review of Public Administration, 1-24. 2025.

Matsuo A, Tsujita M, Kita K, Ayaya S, Kumagaya S: Developing and validating Japanese versions of psychological safety scale, knowledge sharing scale and expressed humility scale. Management and Labour Studies, 49(3), 375-388. 2024.

Matsuo A, Tsujita M, Kita K, Ayaya S, Kumagaya S: The mediating role of psychological safety on humble leadership and presenteeism in Japanese organizations Work, 79(1), 437-447. 2024. DOI:10.3233/WOR-230197.
（企業において、リーダーの謙虚さが、心理的安全性を媒介にして、従業員のプレゼンティーズムを低下させることを見出だした。謙虚さは正確な自己理解への志向性や学習志向性によって特徴付けられるもので、個人レベルの当事者化を表現しうる尺度のひとつといえる。また、心理的安全性は組織レベルの学習志向性や認識的正義と関連性が示唆され、組織レベルの当事者化や形骸化しない共同創造の条件としても注目される。）

Tsujita M, Inada N, Saneyoshi A, Hayakawa T, Kumagaya S: Serial dependence in orientation is weak at the perceptual stage but intact at the response stage in autistic adults. Journal of Vision 25(1) 2025 13-13. 2025.

Hayakawa T, Nakano S, Inada N, Saneyoshi A, Tsujita M, Kumagaya S, Hara N: Pupillary responses to bright and dark stimuli in individuals with autism spectrum disorders PLOS ONE 20(4), 2025, e0319406

Matsuo A, Kitamura H, Yui N, Kumagaya SI: Moral common sense: Examining the false consensus effect of morality in Japan. International Journal of Psychological Studies15(2): 22–29, 2023.

Matsuo A, Tsujita M, Kita K, Ayaya S, Kumagaya SI: Developing and Validating Japanese Versions of Psychological Safety Scale, Knowledge Sharing Scale and Expressed Humility Scale. Management and Labour Studies, 2023. DOI:10.1177/0258042X231191871.

Tsujita M, Homma M, Kumagaya SI, Nagai Y: Comprehensive intervention for reducing stigma of autism spectrum disorders: Incorporating the experience of simulated autistic perception and social contact.PLOS ONE18(8): e0288586, 2023.

Mizumoto J, Mitsuyama T, Kumagaya SI, Eto M, Izumiya M, Horita S: Primary care nurses during the coronavirus disaster and their struggle: Qualitative research. Journal of General and Family Medicine 23: 343-350, 2022. DOI: 10.1002/jgf2.566

雑誌論文（和文）

熊谷晋一郎：認識的不正義とトラウマ—当事者の視点から．トラウマティック・ストレス 23(2): 116-126, 2025.

信田さよ子、大嶋栄子、熊谷晋一郎：見過ごされてきたものは何だったか？—歴史的想像力を起動する．臨床心理学 26(1): 8-18, 2026.

大井瞳、大島郁葉、稲田尚子、熊谷晋一郎：ダイバーシティ推進のための社会の認知・行動変容に向けた認知行動療法．認知行動療法研究 50(2): 55-65、 2024.

里村嘉弘、金原明子、大久保紗佳、杉本達哉、片岡朋恵、小西優歌、吉川桜子、木之下遼、末松万宙、高橋優輔、熊倉陽介、長谷川智恵、佐々木理恵、山口創生、澤田宇多子、宮本有紀、大島紀人、熊谷晋一郎、笠井清登：東京大学医学部におけるダイバーシティ, インクルージョン, コ・プロダクションの学部教育．医学教育 55(2): 121-127、2024.

熊谷晋一郎：医療者におけるインクルージョンの価値：共同創造 (Co-Production) の視点から．医学教育 55(2) : 177-182、2024.

熊谷晋一郎：精神保健における障害の社会モデルの重要性．精神神経学雑誌 127(2): 65-73、2025.

熊谷晋一郎：大学在学中の健康維持･管理の課題．総合リハビリテーション 53(3): 273-277、2025.

大嶋栄子、信田さよ子、熊谷晋一郎：新しい現実に新しい言葉を．臨床心理学 24(5): 625-636、2024.

熊谷晋一郎：当事者と共に在ること：当事者研究･認識的正義･共同創造．臨床心理学 24(7): 166-172、2024.

熊谷晋一郎：神経多様性と社会的包摂．社会学評論 74 :697-714、2024.
（神経多様性運動に至る親の会、専門家、自閉症当事者の共同と対立の歴史を概観するとともに、その歴史のなかにイギリスの参加型自閉症研究や日本の自閉症当事者研究を位置付ける試み。）

神門侑子、松田雄二、西村顕、亀屋惠三子、藤井里咲、熊谷晋一郎：障害者グループホームの入居者特性に対応した分類と建築的配慮．日本建築学会計画系論文集 89: 616-625、2024.

熊谷晋一郎：障害と"個性"．生体の科学 75: 13-17、2024.

小山田那由他、熊谷晋一郎、羽野暁：オープンスペースで「コトバ」を探せ．土木学会誌 109: 32-37、2024.

熊谷晋一郎：ルーツからたどる、当事者研究(最終回)解釈的不正義から考える当事者研究．ミネルヴァ通信 152: 20-23、2023.

熊谷晋一郎：ルーツからたどる、当事者研究(2)三つの顔と二つの源流．ミネルヴァ通信 151: 20-23、2023.

熊谷晋一郎：ルーツからたどる、当事者研究(1)当事者研究とはなにか?．ミネルヴァ通信 150: 20-23、2023.

熊谷晋一郎：より良い組織風土の構築に向けて．刑政 134: 40-57、2023.
（名古屋刑務所での不適切処遇が明るみになったことをきっかけにして進んでいる刑事施設の組織変革において、矯正施設や施設職員の当事者化が必要であると論じた総説。）

熊谷晋一郎：優しい排除の時代に．世界 973: 68-75、2023.

熊谷晋一郎：スティグマのない社会を目指して : 社会モデルと当事者研究．こころの科学 228: 24-30、2023.

熊谷晋一郎：医療と医学のパラダイムシフト : 総論．精神医学 65: 147-154、2023.

熊谷晋一郎：当事者研究．みんなねっと 2023 年 2 月号: 6-9、2023.

熊谷晋一郎、伊藤康貴：これからのひきこもり研究に向けて．理論と動態 15: 119-137、2022.

牧野麻奈絵、辻田匡葵、熊谷晋一郎：聴覚障害者の移動時の快適性に関する当事者研究 : 機内エンターテインメントへの字幕付与に着目して．日本渡航医学会誌 16: 51-58、2022.

熊谷晋一郎、伊藤康貴：これからのひきこもり研究に向けて．理論と動態 15: 119-137、2022.

熊谷晋一郎：当事者研究と研究の共同創造．精神神経学雑誌 124: 623-629、2022.

熊谷晋一郎：当事者研究から学ぶこと．小児内科 54: 1102-1106、2022.

学会発表（国際）

Kumagaya S: Considering the Implementation of Japan's CRPD Concluding Observations from the Perspectives of Disability Studies and Tōjisha Kenkyū. East Asia Disability Studies Forum 2025: October 26, 2025, Osaka.

Kumagaya S: Enhancing Wellbeing through the Promotion of a Stable Sense of Self: A Qualitative Study on the Impact of the Tojisha-Kenkyu Program. International Symposium on Predictive Brain and Cognitive Feelings: July 19, 2023, Tokyo.

熊谷晋一郎：当事者研究の紹介．ソウル大学病院 PGR session、韓国ソウル、 2023 年 5 月 4 日.

熊谷晋一郎：自立生活のための挑戦．忠州湖岩芸術館、韓国ソウル、2023 年 5 月 3 日.

熊谷晋一郎：日本の当事者研究の現状と広がり．韓日セミナー、韓国清州、2023 年 5 月 2 日.

Kumagaya SI: Equality, Diversity, and Inclusion. The Cambridge-UTokyo Joint Symposium 2023: Sep 25, 2023, UK.

Kumagaya SI: Introduction to Tojisha-Kenkyu in Japan. 9th BESETO International Psychiatry Conference: Nov 13, 2022, online.

Kumagaya SI: Persons with Disabilities Living Independently in the CommunityIndependent living in the community: Focusing on violence, trauma and dependence. East Asia Disability Studies Forum: Feb 26, 2022, online.

学会発表（国内）

熊谷晋一郎、Paul French、綾屋紗月：シンポジウム「当事者主体の研究は、何を変えようとし、何を変えてきたか」．第 20 回日本統合失調症学会、オンライン開催、2026 年 3 月 21 日～22 日.

西田淳志、熊谷晋一郎：社会と統合失調症：個人化・家族化を乗り越えて社会モデルで捉えなおす．第 20 回日本統合失調症学会、オンライン開催、2026 年 3 月 21 日～22 日.

Kumagaya, S：The Social Model of Disability and Neurodiversity．The 103rd Annual Meeting of The Physiological Society of Japan、東京、2026 年 3 月 10 日～12 日．

熊谷晋一郎：依存先を増やす自立とは？．日本家庭科教育学会関東地区会、オンライン開催、2025 年 11 月 30 日．

熊谷晋一郎：新生児医療におけるナラティブと正義．第 69 回日本新生児成育医学会・学術集会、神奈川、2025 年 11 月 13 日～15 日．

熊谷晋一郎：解釈的不正義と当事者研究．日本発達神経科学会第 14 回学術集会、宮城、2025 年 11 月 8 日～9 日．

熊谷晋一郎：当事者研究をはじめよう、到達点と新たな一歩ー発達障害、依存症研究より．日本発達障害学会第 60 回研究大会、新潟、2025 年 11 月 1 日～2 日．

熊谷晋一郎、畑田裕ニ：共同創造から共同妄想へ：VR/AR 技術を用いた幻聴・幻視当事者研究の実践．日本精神障害者リハビリテーション学会第 32 回札幌大会、北海道、2025 年 10 月 25 日～26 日．

勝谷紀子、熊谷晋一郎、畑田裕二、出井勇人、晴木祐助、杉浦志帆、長井志江：共同創造の道をつくるー幻覚・幻聴・妄想を生きる知、つなぐ知．日本心理学会第 89 回大会、宮城、2025 年 9 月 5 日～7 日．

熊谷晋一郎：当事者研究と子どもアドボカシー．子どもアドボカシー学会第 4 回研究大会 2025 in 愛知、愛知、2025 年 8 月 23 日～24 日．

熊谷晋一郎：認識的不正義とトラウマ—当事者の視点から．第 24 回日本トラウマティック・ストレス学会学術総会、東京、2025 年 8 月 2 日～3 日．

熊谷晋一郎：当事者研究．第 67 回日本小児神経学会学術集会、鳥取、2025 年 6 月 4 日～7 日．

熊谷晋一郎：スティグマを低減させる接触の条件について．第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会、東京、2024 年 5 月 17 日～19 日．

松本俊彦、熊谷晋一郎、孫大輔、山口有紗：『助けて』が言えない：みえない援助希求に対しプライマリ・ケアの現場で援助者は何ができるのか？．プライマリ・ケア連合学会、静岡、2024 年 6 月 7 日～9 日．

熊谷晋一郎：当事者研究から見た Diversity, Equity, Inclusion．理化学研究所講演、埼玉、2023 年 9 月 6 日．

熊谷晋一郎：当事者研究と研究の共同創造．日本自閉症スペクトラム学会第 21 回研究大会、東京、2023 年 8 月 19 日．

熊谷晋一郎：医療系学生・医療者への支援の原則（社会モデル）、医療者における多様性の価値．第 55 回医学教育学会、長崎、2023 年 7 月 28 日～29 日．

熊谷晋一郎：医学・医療における共同創造に向けた組織変革．第 55 回医学教育学会、長崎、2023 年 7 月 28－29 日．

熊谷晋一郎：当事者研究の視点からみる痛み．第 57 回日本ペインクリニック学会、 佐賀、2023 年 7 月 14 日．

熊谷晋一郎：当事者としてのニーズの伝え方．国立がん研究センターがん対策研究所第 8 回行動科学セミナー、online、 2023 年 7 月 4 日．

熊谷晋一郎：精神障害における障害の社会モデルの重要性．第 119 回日本精神神経学会学術総会、神奈川、2023 年 6 月 23 日．

熊谷晋一郎：セルフケアの共同創造: 成人脳性まひ者の二次障害に着目して．第 21 回日本ヨーガ療法学会研究総会、神奈川、 2023 年 5 月 20 日．

熊谷晋一郎：ニューロダイバーシティから考えるインクルージョン：企業は多様な脳の可能性をどこまで活かせるのか．一般社団法人 応用脳科学コンソーシアム 2023 年度キックオフシンポジウム—自由エネルギー原理からニューロダイバーシティまで—科学が迫る無限な脳の可能性とその産業応用、東京、 2023 年 5 月 18 日．

熊谷晋一郎：医療界における理想的なリーダーシップと組織文化とは．第 31 回日本医学会総会 2023、東京、2023 年 4 月 21 日．

熊谷晋一郎：当事者研究と認知科学の共同によるインクルーシブ社会の構築—趣旨説明．日本認知科学会第 39 回大会、 online、 2022 年 9 月 10 日．

熊谷晋一郎：言うは易し、行うは難しの共同創造とクロスディスアビリティ．第 16 回日本統合失調症学会、 online、2022 年 3 月 20 日．

熊谷晋一郎：中動態と当事者研究．日本発達心理学会第 33 回大会国内研究交流委員会企画シンポジウム「オルタナティブ・ストーリーとしての中動態」、online、2022 年 3 月 5 日．

熊谷晋一郎：自閉スペクトラムの当事者研究が示唆するもの．生理研研究会 2021 プログラム「幼・小児の成長期における脳機能と運動の発達に関する多領域共同研究」、 online、2022 年 3 月 2 日．

熊谷晋一郎：コロナにおける当事者間の格差と継承の困難．社会デザイン学会公開講演会「経験の継承の困難と意義を考える」、online、2021 年 12 月 5 日．

熊谷晋一郎：当事者視点と社会モデルからの自閉スペクトラム症理解: 多文化主義と連続性の両立を目指して．日本発達神経科学会第 10 回学術集会シンポジウム 3「計算モデル研究と当事者研究の共創による発達障害の理解と支援」、online、2021 年 11 月 21 日．

熊谷晋一郎：研究における多様な人々のつながりのデザイン．みんなの認知症情報学会、online、2021 年 11 月 21 日．

熊谷晋一郎：当事者研究はどのような知識を探求するのか．科学基礎論学会秋の研究例会、online、2021 年 11 月 14 日．

熊谷晋一郎：当事者としてのニーズの伝え方．第 10 回看護理工学会学術集会、東京、2022 年 10 月 15 日．

書籍

Kumagaya S, Tanaka T: Introduction. Tanaka, T. (Ed.) Inclusive and Barrier-Free Designs for Rehabilitation Engineering、Springer Singapore、pp.1-11、2026 年 1 月．

笠井清登、熊谷晋一郎 (編)：コ・プロダクション実践ガイド: 当事者とともに創る研究とは．東京大学出版会、2025 年 12 月．

熊谷晋一郎、田中伸明、尾上浩二、崔栄繁、白石誠一郎、佐藤聡：コ・プロダクションの事始め．笠井清登、熊谷晋一郎(編)コ・プロダクション実践ガイド: 当事者とともに創る研究とは、東京大学出版会、pp.1-8、2025 年 12 月．

綾屋紗月、菊野弘次郎、喜多ことこ、廣川麻子、牧野麻奈絵、唯なおみ、熊谷晋一郎： ユーザー・リサーチャー制度導入の試みと課題．笠井清登、熊谷晋一郎(編)コ・プロダクション実践ガイド: 当事者とともに創る研究とは、東京大学出版会、pp.11-28、2025 年 12 月．

熊谷晋一郎：自閉スペクトラム症概念の学術的変革．笠井清登、熊谷晋一郎(編)コ・プロダクション実践ガイド: 当事者とともに創る研究とは、東京大学出版会、pp.129-139、2025 年 12 月．

熊谷晋一郎、田中伸明、尾上浩二、崔栄繁、白石誠一郎、佐藤聡、笠井清登、田中沙織、西田淳志、栁下祥、綾屋紗月：当事者コミュニティと研究者コミュニティの共同による学術変革と社会変革．笠井清登、熊谷晋一郎(編)コ・プロダクション実践ガイド: 当事者とともに創る研究とは、東京大学出版会、pp.289-314、2025 年 12 月．

熊谷晋一郎：当事者研究とコ・プロダクション．佐藤邦政、神島裕子、榊原英輔、三木那由他(編)認識的不正義ハンドブック：理論から実践まで、勁草書房、pp. 204-218、2024 年 11 月．

熊谷晋一郎：当事者研究と共同創造．小川眞里子、鶴田想人、弓削尚子(編)ジェンダード・イノベーションの可能性、明石書店、pp.215-236、2024 年 10 月．

嶺重慎、熊谷晋一郎、村田淳、安井絢子(編) ：語りの場からの学問創成：当事者、ケア、コミュニティ．京都大学学術出版会、2024 年 3 月．

熊谷晋一郎： 経験を表すことばを作ること．障害学会 20 周年記念事業実行委員会(編)障害学の展開：理論・経験・政治、明石書店、pp.146-159、2024 年 3 月．

熊谷晋一郎：当事者研究：知と倫理．嶺重慎、熊谷晋一郎、村田淳、安井絢子(編)語りの場からの学問創成：当事者、ケア、コミュニティ、京都大学学術出版会、pp.23-42、2024 年 3 月．

熊谷晋一郎、安井絢子： 当事者研究とケアの倫理：その響き合うところ．嶺重慎・熊谷晋一郎、村田淳、安井絢子(編)語りの場からの学問創成：当事者、ケア、コミュニティ、京都大学学術出版会、pp.73-92、2024 年 3 月．

熊谷晋一郎： 共同的な知の方法．笠井清登、熊谷晋一郎、宮本有紀、東畑開人、熊倉陽介(編)こころの支援と社会モデル：トラウマインフォームドケア・組織変革・共同創造、金剛出版、pp.213-223、2023 年 4 月．

熊谷晋一郎： 社会モデル． 笠井清登、熊谷晋一郎、宮本有紀、東畑開人、熊倉陽介(編)こころの支援と社会モデル：トラウマインフォームドケア・組織変革・共同創造、金剛出版、pp.224-240、2023 年 4 月．

綾屋紗月、上岡陽江、熊谷晋一郎、佐々木理恵、里村嘉弘、宮本有紀：［座談会 4］「言うは易し，行うは難し」の共同創造．笠井清登・熊谷晋一郎・宮本有紀・東畑開人・熊倉陽介(編)こころの支援と社会モデル：トラウマインフォームドケア・組織変革・共同創造、金剛出版、pp.260-273、2023 年 4 月．

熊谷晋一郎：コロナ禍における「総障害者化」について．発達障害白書 2023 年版、明石書店、pp.44-46、2022 年 9 月．

立命館大学教養教育センター、熊谷晋一郎、上田紀行、隠岐さや香、山下範久、松原洋子、坂下史子、南川文里、小川さやか、美馬達哉、飯田豊、富永京子、瀧本和成、柳原恵、横田祐美子、北山晴一、新山陽子、大﨑智史、小寺未知留、加藤政洋、原口剛、熊澤大輔、田中祐二、山本貴光、坂上陽子、吉川浩満：自由に生きるための知性とはなにか．晶文社、2022 年 9 月．

森村美和子、熊谷晋一郎： 特別な支援が必要な子たちの「自分研究」のススメ：子どもの「当事者研究」の実践．金子書房、2022 年 10 月．

桑原斉、中津真美、垣内千尋、熊谷晋一郎： 障害学生支援入門: 合理的配慮のための理論と実践．金子書房、2022 年 5 月．

熊谷晋一郎：「子ども当事者研究」の研究．子ども・子育て当事者研究ネットワーク 子ども当事者研究：わたしの心の街にはおこるちゃんがいる．ゆるふわコトノネ生活、pp.112-113、2022 年 3 月．

熊谷晋一郎、藤野博(監訳)：「心の理論」は必要か : 心のありかを探る 12 の視点．金子書房、 (Ivan Leudar, & Alan Costall(Eds.). (2009). Against theory of mind. Palgrave Macmillan). 2023 年 12 月．

主催シンポジウム（国際）

東京大学（ホスト）： Decolonizing Mental Health in Asia Workshop, Tokyo, Japan. December 20, 2022.

主催シンポジウム（国内）

障害学会第 20 回大会、東京、2023 年 9 月 16 日〜17 日．

障害学会第 19 回大会、京都、2022 年 9 月 17 日．

矯正施設における職員と組織の状態に関する調査研究：施設職員の当事者研究． online、2023 年 3 月 27 日．

矯正施設における職員と組織の状態に関する調査研究：施設職員の当事者研究． online、2023 年 3 月 17 日．

組織マネジメントと当事者研究. 法務省有志職員による矯正研修所高等科研修員向け特別企画． online、2021 年 11 月 7 日．

市民アウトリーチ・共同創造活動

熊谷晋一郎：すぎなみ大人塾 2023 総合コース チガイ・ラボ．セシオン杉並講座室、2023 年 12 月 1 日．

杉並区教育委員会主催、共催: 東京大学先端科学技術研究センター共催、企画: Learning Design Lab 企画：すぎなみ大人塾 2023 総合コース チガイ・ラボ．セシオン杉並講座室、東京都杉並区．2023 年 11 月 17 日．

杉並区教育委員会主催、共催: 東京大学先端科学技術研究センター共催、企画: Learning Design Lab 企画：すぎなみ大人塾 2023 総合コース チガイ・ラボ．セシオン杉並講座室、東京都杉並区．2023 年 11 月 3 日．

杉並区教育委員会主催、共催: 東京大学先端科学技術研究センター共催、企画: Learning Design Lab 企画：すぎなみ大人塾 2023 総合コース チガイ・ラボ．セシオン杉並講座室、東京都杉並区．2023 年 10 月 20 日．

杉並区教育委員会主催、共催: 東京大学先端科学技術研究センター共催、企画: Learning Design Lab 企画：すぎなみ大人塾 2023 総合コース チガイ・ラボ．セシオン杉並講座室、東京都杉並区．2023 年 10 月 6 日．

杉並区教育委員会主催、共催: 東京大学先端科学技術研究センター共催、企画: Learning Design Lab 企画：すぎなみ大人塾 2023 総合コース チガイ・ラボ．セシオン杉並講座室、東京都杉並区．2023 年 9 月 15 日．

杉並区教育委員会主催、共催: 東京大学先端科学技術研究センター共催、企画: Learning Design Lab 企画：すぎなみ大人塾 2023 総合コース チガイ・ラボ．セシオン杉並講座室、東京都杉並区．2023 年 9 月 1 日．

杉並区教育委員会主催、共催: 東京大学先端科学技術研究センター共催、企画: Learning Design Lab 企画：すぎなみ大人塾 2023 総合コース チガイ・ラボ．セシオン杉並講座室、東京都杉並区．2023 年 8 月 18 日．

杉並区教育委員会主催、共催: 東京大学先端科学技術研究センター共催、企画: Learning Design Lab 企画：すぎなみ大人塾 2023 総合コース チガイ・ラボ．セシオン杉並講座室、東京都杉並区．2023 年 8 月 11 日．

杉並区教育委員会主催、共催: 東京大学先端科学技術研究センター共催、企画: Learning Design Lab 企画：すぎなみ大人塾 2023 総合コース チガイ・ラボ．セシオン杉並講座室、東京都杉並区．2023 年 7 月 14 日．

京都大学学生総合支援機構 障害学生支援部門（DRC）主催、京都大学高等教育アクセシビリティプラットフォーム（HEAP）、東京大学インクルーシブ・アカデミア・プロジェクト、東京大学障害と高等教育に関するプラットフォーム（PHED）共済、 京都大学バリアフリーフォーラム 2022、京都大学バリアフリーシンポ．京都大学 百周年時計台記念館百周年記念ホール、国際交流ホール、京都府京都市、2022 年 11 月 12 日．

杉並区教育委員会主催、共催: 東京大学先端科学技術研究センター共催、企画: Learning Design Lab 企画：すぎなみ大人塾 2022 総合コース ジブン・ラボ．高円寺学園、東京都杉並区、2022 年 10 月 15 日．

杉並区教育委員会主催、共催: 東京大学先端科学技術研究センター共催、企画: Learning Design Lab 企画：すぎなみ大人塾 2022 総合コース ジブン・ラボ．高円寺学園、東京都杉並区、2022 年 9 月 30 日．

杉並区教育委員会主催、共催: 東京大学先端科学技術研究センター共催、企画: Learning Design Lab 企画：すぎなみ大人塾 2022 総合コース ジブン・ラボ．高円寺学園、東京都杉並区、2022 年 9 月 16 日．

杉並区教育委員会主催、共催: 東京大学先端科学技術研究センター共催、企画: Learning Design Lab 企画：すぎなみ大人塾 2022 総合コース ジブン・ラボ．高円寺学園、東京都杉並区、2022 年 9 月 3 日．

日本学術会議脳とこころ分科会主催：日本学術会議公開シンポジウム「神経科学領域の倫理的課題」．Online、2022 年 8 月 28 日．

杉並区教育委員会主催、共催: 東京大学先端科学技術研究センター共催、企画: Learning Design Lab 企画：すぎなみ大人塾 2022 総合コース ジブン・ラボ．高円寺学園、東京都杉並区、2022 年 8 月 19 日．

杉並区教育委員会主催、共催: 東京大学先端科学技術研究センター共催、企画: Learning Design Lab 企画：すぎなみ大人塾 2022 総合コース ジブン・ラボ．高円寺学園、東京都杉並区、2022 年 8 月 5 日．

杉並区教育委員会主催、共催: 東京大学先端科学技術研究センター共催、企画: Learning Design Lab 企画：すぎなみ大人塾 2022 総合コース ジブン・ラボ．高円寺学園、東京都杉並区、2022 年 7 月 29 日．

日本学術会議第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会，日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会主催：公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ」第３回「Disability Inclusive Academia：障害のある人々の視点は科学をどう変えるか」,、online、2022 年 3 月 23 日．

東京大学エクステンション株式会社・熊谷研究室主催：東京大学エクステンション株式会社インクルーシブデザインスクールインクルーシブ組織創造コース．大手町ビル 7F、2023 年 3 月 7 日．

東京大学エクステンション株式会社・熊谷研究室主催：東京大学エクステンション株式会社インクルーシブデザインスクールインクルーシブ組織創造コース．大手町ビル 7F、2023 年 2 月 28 日．

熊谷研究室・オムロン株式会社主催： オムロン当事者研究導入講座、online、2022 年 11 月 9 日．

熊谷研究室・オムロン株式会社主催： オムロン当事者研究導入講座、online、2022 年 10 月 26 日．

熊谷研究室・オムロン株式会社主催： オムロン当事者研究導入講座、online、2022 年 10 月 12 日．

熊谷研究室・オムロン株式会社主催： オムロン当事者研究導入講座、online、2022 年 9 月 28 日．

電通ダイバーシティーラボ・先端科学技術研究センター当事者研究分野・日本エンゲージメント協会. ハンブルリーダー養成講座, 武田薬品グローバル本社 6 階会議室, 東京都中央区、2022 年 9 月 20－21 日.

熊谷研究室・オムロン株式会社主催： オムロン当事者研究導入講座、online、2022 年 9 月 14 日.

東京大学エクステンション株式会社・熊谷研究室主催：東京大学エクステンション株式会社インクルーシブデザインスクール当事者研究導入講座、online、2021 年 12 月 9 日.

東京大学エクステンション株式会社・熊谷研究室主催：東京大学エクステンション株式会社インクルーシブデザインスクール当事者研究導入講座、online、2021 年 12 月 2 日.

東京大学エクステンション株式会社・熊谷研究室主催：東京大学エクステンション株式会社インクルーシブデザインスクール当事者研究導入講座、online、2021 年 11 月 25 日.

東京大学エクステンション株式会社・熊谷研究室主催：東京大学エクステンション株式会社インクルーシブデザインスクール当事者研究導入講座、online、2021 年 11 月 18 日.

東京大学エクステンション株式会社・熊谷研究室主催：東京大学エクステンション株式会社インクルーシブデザインスクール当事者研究導入講座、online、2021 年 11 月 11 日.

東京大学エクステンション株式会社・熊谷研究室主催：東京大学エクステンション株式会社インクルーシブデザインスクール当事者研究導入講座、online、2021 年 11 月 4 日.

向谷地生良、熊谷晋一郎、橘秀樹、渡辺チャーミー躁子主催：特別企画　当事者研究座談会. 第 18 回当事者研究全国交流集会北海道大会、online、2021 年 11 月 6 日.

プレスリリース・報道発表

プレスリリース「謙虚なリーダーのもとで心理的安全性が高まりメンバーが本領発揮しやすくなる—職場においてリーダーの謙虚さと心理的安全性が果たす役割—」、2024 年 3 月 15 日.

毎日新聞「2023 年にのぞんで—『自立』の意味を考える」、2023 年 1 月 18 日.

WEB サンガジャパン〔Post-religion 対談〕個を深めて仲間と共に近代を生きる、2022 年 8 月 19 日.

日本経済新聞「気軽に依存しあえる社会に—「生きづらさ」当事者が解明」、2022 年 8 月 14 日.

朝日新聞「『自分依存』が能力主義に—熊谷晋一郎さんが考えるやまゆり園事件」、2022 年 7 月 26 日.

Mogura VR News「誰のためのテクノロジー？ メタバースが変える「障害」の意味」、2022年5月20日.

QLife・遺伝性疾患プラス「病気・障害に関わる偏見「スティグマ」への対処法—“生きやすさ”を手に入れるヒントとは？」、2022年2月22日.

■綾屋　紗月（研究分担者）

雑誌論文（英文）

Kumagaya S, Ayaya S, Goldfarb KE: Uncommon Sense: Tōjisha kenkyū and the co-production of scientific knowledge in Japan. Transcultural Psychiatry. 2026. (in press).

Harada N, Pellicano E, Kumagaya S, Ayaya S, Asada K, Senju A: I don't think they understand the reality of autism: The lived experiences of autistic adults in Japan. Autism, 29, 2715–2726. 2025.

Kumagaya S, Matsuo A, Yui N, Ayaya S, Kawahara T, Kashiwabara K, Koto G, Kamioka H: Fostering employee engagement and mental health: Impact of psychological safety, humble leadership, and knowledge sharing in the Japanese public sector. International Review of Public Administration, 1-24. 2025.

Matsuo A, Tsujita M, Kita K, Ayaya S, Kumagaya S: The mediating role of psychological safety on humble leadership and presenteeism in Japanese organizations Work, 79(1), 437-447. 2024.

Matsuo A, Tsujita M, Kita K, Ayaya S, Kumagaya S: Developing and validating Japanese versions of psychological safety scale, knowledge sharing scale and expressed humility scale. Management and Labour Studies, 49(3), 375-388. 2024.

Daikoku T, Kumagaya SI, Ayaya S, Nagai Y: Non-autistic persons modulate their speech rhythm while talking to autistic individuals. PloS one, 18(9), e0285591. 2023.

Hsieh JJ, Nagai Y, Kumagaya SI, Ayaya S, Asada M: Atypical Auditory Perception Caused by Environmental Stimuli in Autism Spectrum Disorder: A Systematic Approach to the Evaluation of Self-Reports. Frontiers in Psychiatry, 13, 888627. 2022.

雑誌論文（和文）

綾屋紗月：ASDにおける感覚と言葉のマイノリティ性. こころの科学, 235, 32-36. 2024.

綾屋紗月：発達障害当事者からみた当事者研究-「等身大の自己」がもたらす変革とつながり. 精神看護, 27(1), 12-15. 2024.

綾屋紗月：自閉スペクトラム症の学生や研究者への合理的配慮と基礎的環境整備. 学術の動向. 27(10), 40-45. 2022.

綾屋紗月、岩佐明彦、上野佳奈子、古賀政好、松原茂樹、橋口亜希子、矢野拓洋、市川幹朗：当事者研究から見えてきた、社会・建築に期待すること. 建築雑誌, 137(1766), 12-17. 2022.

学会発表（国内）

Ayaya S: Evidence-Making of Neurodiversity: Insights from Sensory Experience and Self-Understanding by Autistic Individuals. The 103rd Annual Meeting of The Physiological Society of Japan、東京、2026 年 3 月 10 日～12 日.

綾屋紗月：日本の自閉当事者研究の紹介．第 2 回 Autism Expo、ソウルヤンジェドン aT センター第 2 展示ホール 3F、online、2022 年 7 月 15 日～16 日.

綾屋紗月：発達障害の支援ニードにおける当事者の視点．国立精神・神経医療研究センター、第 3 回発達障害者支援研修：指導者養成研修パートII、online、2022 年 9 月 29 日.

綾屋紗月：当事者視点で語る感覚調整障害．第 39 回日本感覚統合学会研究大会、online、2022 年 11 月 5 日.

綾屋紗月：精神・発達障害のある学生や研究者への合理的配慮と基礎的環境整備．日本学術会議公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ」第 3 回「Disability Inclusive Academia：障害のある人々の視点は科学をどう変えるか」、online、2022 年 3 月 23 日.

綾屋紗月：自分の身体にちょうどいいコミュニケーション・デザインを考える．日本福祉のまちづくり学会関東甲信越支部 2021 年度第 2 回セミナー、online、2022 年 3 月 26 日.

宮路天平、松尾朗子、綾屋紗月、上岡陽江、喜多三恵子、向谷地生良、柏原康佑、熊谷晋一郎：当事者研究の導入が職場のウェルビーイングと創造性に与える影響に関する研究：研究実施計画．日本臨床試験学会第 14 回学術集会総会、石川県立音楽堂、石川県金沢市、2023 年 2 月 9 日～10 日.

書籍

綾屋紗月：自閉症とジェンダーの交差性．小川眞里子・鶴田想人・弓削尚子(編著)ジェンダード・イノベーションの可能性、pp.237-262、明石書店．2024.

綾屋紗月：仲間・自己・責任：自己権利擁護の前提条件についての覚書．嶺重慎・熊谷晋一郎・村田淳・安井絢子（編著） 協力：京都大学学生総合支援機構、語りの場からの学問創成―当事者，ケア，コミュニティ．pp.137-152、京都大学学術出版会．2024.

綾屋紗月：ようこそ！ 新しい仲間たち―「コミュニケーション障害」はつながりの始まり．大内雅登・山本登志哉・渡辺忠温（編著）自閉症を語りなおす―当事者・支援者・研究者の対話, pp.155-168、新曜社．2023.

綾屋紗月、熊谷晋一郎：ゆっくりていねいにつながる～当事者研究の視点から．子どものグリーフに寄りそう＆響き合うグリーフ、pp187-245、一般社団法人グリーフサポートせたがや．2022.

綾屋紗月： 第 6 章 臨床的診察における統合失調症の相互行為的標識の特定．熊谷晋一郎・藤野博 (監訳)「心の理論」は必要か：心のありかを探る 12 の視点」、pp.153-176、金子書房．（McCabe, R. (2009). Specifying Interactional Markers of Schizophrenia in Clinical Consultations. In Leudar, I., & Costall, A. (Eds.)Against Theory of Mind, pp.108-125, Palgrave MacMillan.）．2023.

市民アウトリーチ・共同創造活動

綾屋紗月：OPEN LETTER TO THE LANCET COMMISSION ON THE FUTURE OF CARE AND CLINICAL RESEARCH IN AUTISM. おとえもじホームページ．2022.

綾屋紗月：発達障害とアディクション：マジョリティの当たり前を再考する．令和３年度厚生労働省依存症民間団体支援事業 2021 年度女性依存症者に特化した全国支援者研修, online．2022 年 1 月 29 日.

綾屋紗月：発達障害であること女性であること．NABA オンラインセミナー,online．2022 年 2 月 20 日.

綾屋紗月：キャンパスから考える D&I．国際女性デー記念東京大学×朝日新聞シンポジウム「インクルーシブな未来へ」、online．2022 年 3 月 2 日.

綾屋紗月：これからの心のバリアフリー：発達障がい当事者の目線から．厚生労働省委託事業令和３年度心のバリアフリー研修会、全国障害者総合福祉センター、online．2022 年 3 月 19 日.

綾屋紗月：自他の身体に関する知識と社会変革：当事者研究とソーシャルマジョリティ．文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム 職域・地域架橋型: 価値に基づく支援者育成 TICPOC、東京大学本郷地区キャンパス医学部教育研究棟 13 階第 6・7 セミナー室．2022 年 5 月 22 日.

綾屋紗月：「発達障害」を問い直す：「コミュニケーション障害」ではなく「身体」に目を向ける．予防的支援推進とうきょうモデル事業当事者視点の獲得研修、online．2022 年 8 月 4 日.

綾屋紗月：発達障害の特性を持つ女性依存症者への援助．令和４年度厚生労働省依存症民間団体支援事業 2022 年度女性依存症者に特化した全国支援者研修、online．2022 年 10 月 23 日.

綾屋紗月：誤解されやすい発達障害と DV 被害について．川崎市こども未来局児童家庭支援・虐待対策室令和４年度川崎市ＤＶ防止・被害者支援基本計画研修、川崎市役所第 3 庁舎 15 階会議室．2022 年 11 月 21 日.

プレスリリース・報道発表

2022/3/28: 朝日新聞夕刊 国際女性デー記念 東京大学×朝日新聞シンポジウム インクルーシブな未来へ「包み込む社会を実現するには」．2022.

■外谷　弦太（研究分担者）（2022～2023 まで）

雑誌論文（英文）

Hakataya S, Katsu N, Okanoya K, Toya G: An exploratory study of behavioral traits and the establishment of social relationships in female laboratory rats. PLOS ONE, e0295280.

Nakata, S., Masumi, A., Toya, G. (2024). Formalising prestige bias: Differences between models with first-order and second-order cues. Evolutionary Human Sciences, 6, e21. 2023.

学会発表（国際）

Toya G, Asano R, Hashimoto T: The condition of recursive combination in the evolution of reinforcement learning agents. Joint Conference on Language Evolution, Kanazawa, Japan, Poster, 7 Sep. 2022.

Toya G, Mizumoto T, Okanoya K, Tachibana RO: Social interactions in Bengalese finches (Lonchura striata var. domestica): Automated Measurements using Visual and Auditory Signals to Test for the Commitment Hypothesis. The XXVIII International Bioacoustics Congress (IBAC2023), Sapporo, Japan, Poster, 28 Oct. 2023.

学会発表（国内）

外谷弦太、水本武志、岡ノ谷一夫、橘亮輔：ジュウシマツの社会相互作用の定量的分析．日本動物行動学会第 40 回大会、オンライン、2021 年 9 月 22 日．ポスター

勝野吏子、博多屋汐美、外谷弦太、岡ノ谷一夫：新奇物への探索傾向は見知らぬ他者との社会関係構築を予測するか？：ラットにおける探索的分析．日本人間行動進化学会第 14 回大会、オンライン、2021 年 12 月 4 日．ポスター

外谷弦太、水本武志、岡ノ谷一夫、橘亮輔：ジュウシマツの社会相互作用の定量的分析．2022 年 6 月度聴覚研究会、金沢医科大学、2022 年 6 月 24 日．口頭

Hakataya S, Katsu N, Okanoya K, Toya G: Measuring personality traits in laboratory rats. 日本動物心理学会第 82 回大会、オンライン、2022 年 10 月 15 日．ポスター

Katsu N, Hakataya S, Okanoya K, Toya G: The effect of personality traits on the social relationship formation in female laboratory rats. 日本動物心理学会第 82 回大会、オンライ、2022 年 10 月 15 日．ポスター

中田星矢、外谷弦太：手がかりの違いに基づいたプレステージバイアスの計算論モデル構築．日本人間行動進化学会第 15 回大会、札幌、2022 年 12 月 10 日．ポスター

外谷弦太：動物の家畜化とインタラクション創発．JST CREST『脳領域／個体／集団間のインタラクション創発原理の解明と適用』定例会議、名古屋、2023 年 1 月 18 日．口頭

中田星矢、真隅暁、外谷弦太：名声バイアスの計算論モデリング:手がかりの違いが文化進化に与える効果の検討．日本社会心理学会第 62 回大会、東京、2023 年 9 月 7 日．ポスター

中田星矢、外谷弦太：名声分布の違いが文化進化の速度に与える効果：シミュレーションによる検討．日本人間行動進化学会第 16 回大会、大阪、2023 年 12 月 2 日．ポスター

博多屋汐美、勝野吏子、外谷弦太、岡ノ谷一夫：ラットの行動特性が社会関係構築に与える影響の探索．日本動物行動学会第 42 回大会、京都、2023 年 11 月 4 日．ポスター

書籍

徳増雄大、外谷弦太：仲良くなければ生き残れない村と家畜たち．岡ノ谷一夫・藤田耕司(編著) 言語進化学の未来を共創する、pp. 231-254、ひつじ書房．2022.

公募研究

■入江　駿（前期・後期）

雑誌論文（英文）

*Irie S, Kobori T, Sumi K, Tachibana A, Qian Y, Makifuji K: Remote motion capture protocol for transferring 3D motion data to remote locations in real time. *Adv. BioMed. Eng.* 14: 287-293. 2025. https://doi.org/10.14326/abe.14.287

*Irie S, Tachibana A, Matsuo A: Association between Reaction Times in the Joint Simon Task and Personality Traits. Brain Sci. 2023, 13(8), 1207. DOI: 10.3390/brainsci13081207

*Irie S, Watanabe Y, Tachibana A, Sakata N: Mental arithmetic modulates temporal variabilities of finger-tapping tasks in a tempo-dependent manner. PeerJ 10(2):e13944. 2022.
DOI: 10.7717/peerj.13944

学会発表（国際）

Irie S, Tachibana A, Matsuo A. Joint Simon effects were correlated with the scores of neuroticism. Neuroscience 2023, Web. 2023.11.10-15.

学会発表（国内）

入江駿、伊牟田凪沙、橋口怜知、橘篤導：アイコンタクト時における心拍誘発電位の実在感依存的変調．第 103 回日本生理学会大会、東京、2026 年 3 月 10 日～12 日．

入江駿、伊牟田凪沙、橋口怜知、橘篤導：アイコンタクト課題時における他者実在感は心拍誘発電位を増大させる．日本基礎心理学会第 44 回大会、新潟、2025 年 11 月 28 日～30 日．

入江駿、小柳 碧羽、橘篤導、喜多村拓：ニューロナビゲーションのための Unity plug-in の開発．APPW 2025、千葉、2025 年 3 月 17 日～19 日．

小柳碧羽、入江駿、橘篤導、喜多村拓：AprilTag を利用したニューロナビゲーションの開発．APPW 2025、千葉、2025 年 3 月 17 日～19 日．

入江駿、小柳碧羽、橘篤導、喜多村拓：ニューロナビゲーションのための Unity plug-in の開発．APPW 2025、千葉、2025 年 3 月 17 日～19 日．

入江駿、橘篤導、松尾朗子：一般化線形混合モデルによる共同サイモン効果の再考．第 65 回日本社会心理学会大会、東京、2024 年 8 月 31 日～9 月 1 日．

渡辺迪子、橘篤導、松尾朗子、徳田信子、入江駿：感情想起課題における前頭前野の機能局在．第 129 回日本解剖学会学術集会、那覇、2024 年 3 月 21 日～24 日．

入江駿、橘篤導、渡部祥輝、坂田信裕：視線は、社会的サイモン効果を増大させる．第 46 回日本神経心理学会総会、札幌、2022 年 9 月 8 日～9 日．

産業財産権

入江駿、小堀貴司、角和樹：遠隔医療提供システム、サーバ及びプログラム．特願 2023-189846.

■和田　真（後期）

雑誌論文（英文）

*Wada M, Takano K, Kobayakawa T: Temporal calibration in taste temporal order judgment is associated with empathizing traits. *Scientific Reports*, 16, 5001, 2026.

*Ichikawa I, Nagai Y, Kuniyoshi Y, *Wada M: Machine learning model for reproducing subjective sensations and alleviating sound-induced stress in individuals with developmental disorders. *Front. Psychiatry* 16:1412019, 2025.
（自閉スペクトラム症者および定型発達者を対象に、聴覚刺激の想起・緩和に関する音響調整データと自閉傾向や疲労度等の個人特性との関連を機械学習により解析した。その結果、特定の場面における音知覚の傾向や、苦痛を軽減するための最適な調整の方向性を予測することが可能となった。）

*Chen N, Hidaka S, Ishii N, *Wada M: People with higher systemizing traits have wider right hands. *Front. Psychiatry* 15:1404559, 2024.

学会発表（国際）

Ichikawa I, Nagai Y, Kuniyoshi Y, Wada M: Developing deep learning models for reproducing individual subjective auditory sensations and reducing sound-induced stress, 2026 the 6th Symposium on Pattern Recognition and Applications (SPRA 2026), Osaka, 2026 年 3 月 20 日．

学会発表（国内）

Wada M, Yano K, Sasai S, Shin J, Yasumura A, Nagai Y: Higher integrated information in the left prefrontal cortex of autistic people during visual search task were correlated with their ADHD traits. 日本生理学会第 103 回大会、東京医科大学、2026 年 3 月 12 日．

和田真、矢野幸治、笹井俊太朗、愼重弼、安村明、長井志江：視覚探索における正答数はfNIRS 計測から算出された統合情報量と相関する．第 16 回多感覚研究会、京都大学、2026 年 2 月 14 日．

市川樹、長井志江、國吉康夫、和田真：個人・環境適応型聴覚刺激緩和システムの開発と検証実験の結果報告．第 16 回多感覚研究会、京都大学、2026 年 2 月 14 日．

和田真、高野弘二、小早川達：自閉スペクトラム症の人の感覚の特徴とその基盤～「混ざった味」を忌避するメカニズムの解明に向けて～．第 21 回自閉症学研究会, モクシー東京錦糸町、2026 年 1 月 31 日．

和田真：人とマウスで明らかにする自閉スペクトラム症の感覚認知の特徴．シンポジウム「自閉スペクトラム症が示す多様な世界の理解を目指して」．第 48 回日本分子生物学会年会、パシフィコ横浜、2025 年 12 月 5 日．

市川樹、長井志江、國吉康夫、和田真：聴覚過敏性に対処する個人適応型『スマート耳栓』に向けた検証実験．日本発達神経科学会第 14 回学術集会、東北大学青葉山東キャンパス サイエンスキャンパスホール、2025 年 11 月 8 日～9 日．

和田真、矢野幸治、笹井俊太朗、愼重弼、安村明、長井志江：自閉スペクトラム症者の左前頭前皮質で観察された高い統合情報量．日本発達神経科学会第 14 回学術集会、東北大学青葉山東キャンパス サイエンスキャンパスホール、2025 年 11 月 8 日～9 日．

和田真：人とマウスで明らかにする感覚の時空間的統合とその多様性．話題提供：シンポジウム「時間を生きる動物たち：その行動と神経基盤」、第 85 回日本動物心理学会大会、同志社大学今出川キャンパス、2025 年 10 月 11 日．

市川樹、長井志江、國吉康夫、和田真：発達障害に伴う聴覚過敏を緩和するための個人適応型フィルタシステムの開発と効果検証のための取り組み．第 12 回 成人発達障害支援学会東京大会、一橋大学一橋講堂、2025 年 10 月 11 日～12 日．

Widjaja K, Harada Y, Nagai Y, Ohyama J, Wada M: Distinct adaptation aftereffects in facial emotion recognition in individuals with high and low autistic traits: A comparison of static and dynamic conditions. Neuro2025、Niigata、2025 年 7 月 26 日．

Gotoh M, Nakata M, Nagahama N, Wada M: A questionnaire survey on various sensory issues among individuals with autism spectrum disorder. Neuro2025、Niigata、2025 年 7 月 26 日．

後藤瑞甫、日髙聡太、石井亨視、澤田泰宏、山本慎也、和田真：ASD 者・定型発達者における感覚特性と深部温度との関係．第 20 回自閉症学研究会、東京大学、2025 年 7 月 19 日．

Widjaja K, Harada Y, Nagai Y, Ohyama J, Wada M: Investigating the static and changing facial expression adaptation aftereffects in facial emotion recognition on individuals with high-autistic traits. APPW2025、Makuhari、2025 年 3 月 17 日.

Ichikawa I, Nagai Y, Kuniyoshi Y, Wada M: Development of an AI model to predict auditory hypersensitivity associated with developmental disorders, and an AI model to predict auditory filter to alleviate auditory hypersensitivity. APPW2025、Makuhari、2025 年 3 月 17 日.

Gotoh M, Ishii N, Hidaka S, Sawada Y, Takashima A, Yamamoto S, Wada M: Measuring the relationships between autistic traits/sensory features and core body temperature. APPW2025、Makuhari、2025 年 3 月 17 日.

Widjaja K, Harada Y, Nagai Y, Ohyama J, Wada M: Investigation on the difference between changing and static facial expression adaptation in facial emotion recognition. 第 15 回多感覚研究会、早稲田大学戸山キャンパス、2024 年 11 月 17 日.

市川樹、長井志江、國吉康夫、和田真：発達障害者の聴覚過敏性を予測・緩和する機械学習モデルの開発．第 15 回多感覚研究会、早稲田大学戸山キャンパス、2024 年 11 月 17 日.

和田真、高野弘二、小早川達：味覚時間順序判断と共感化傾向．第 15 回多感覚研究会、早稲田大学戸山キャンパス、2024 年 11 月 17 日.

市川樹、長井志江、國吉康夫、和田真：発達障害者の聴覚過敏性を緩和する聴覚フィルタ設定を算出する AI システム．日本発達神経科学会第 13 回学術集会、所沢、2024 年 11 月 9 日～10 日.

後藤瑞甫、仲田真理子、長濱奈甘乃、和田真：質問紙を用いた ASD 者の感覚の困りごとについての実態調査．日本発達神経科学会第 13 回学術集会、所沢、2024 年 11 月 9 日～10 日.

Widjaja K, Harada Y, Nagai Y, Ohyama J, Wada M: Adaptation aftereffects in facial emotion recognition: A comparison of static and changing facial expressions. 日本発達神経科学会第 13 回学術集会、所沢、2024 年 11 月 9－10 日.

Widjaja K, Sato A, Ishii N, Nagai Y, Miyazaki M, Wada M: Investigation of ‘hypo-priors hypothesis’ on tactile temporal order judgement in Individuals with ASD and its comorbidity．第 18 回自閉症学研究会、九州大学、2024 年 7 月 27 日.

Widjaja K, Sato A, Ishii N, Nagai Y, Miyazaki M, Wada M: ASD and ADHD comorbidity might affect the usage of prior information in tactile temporal order judgement. Neuro2024、Fukuoka、2024 年 7 月 24 日.

主催シンポジウム（国内）

和田真： シンポジウム：ニューロダイバーシティ視点の生理学的研究への展開．日本生理学会第 103 回大会、東京医科大学、2026 年 3 月 10 日．オーガナイザー、座長【B01 班共催】

市民アウトリーチ・共同創造活動

和田真：発達障害の理解と知識～本人理解につながる、感覚特性と脳の仕組み～．令和 7 年度 神奈川県発達障害支援センター公開講座、神奈川県総合医療会館、2025 年 11 月 24 日．

和田真：発達障害のある子の感覚の問題～「過敏と鈍麻」～．令和 7 年度現代的課題対策講座, 茨城県県北生涯学習センター、2025 年 12 月 7 日．

プレスリリース・報道発表

甘味と塩味を感じるタイミングの調整に個人差 ～発達特性に関連した共感化傾向との関連を確認～．国立障害者リハビリテーションセンター、2026 年 2 月 27 日．

■山口　智史（後期）

雑誌論文（英文）

*Yamaguchi S, DeVylder J, Yamasaki S, Ando S, Miyashita M, Hosozawa M, Baba K, Niimura J, Nakajima N, Usami S, Kasai K, Hiraiwa-Hasegawa M, Nishida A: Protective role of school climate for impacts of COVID-19 on depressive symptoms and psychotic experiences among adolescents: a population-based cohort study. Psychological Medicine. 54:4878-4885, 2024. DOI: 10.1017/S0033291724003192

学会発表（国際）

Yamaguchi S, DeVylder J, Yamasaki S, Ando S, Miyashita M, Hosozawa M, Baba K, Niimura J, Nakajima N, Usami S, Kasai K, Hiraiwa-Hasegawa M, Nishida A: Protective role of school climate for impacts of COVID-19 on depressive symptoms among adolescents: a population-based cohort study. 46th annual Conference of the International School Psychology Association: July 19, 2025, Coimbra

学会発表（国内）

山口智史：学校風土がコロナ禍における子どもの援助希求行動に与えた影響　思春期コホート研究による検証．日本健康相談活動学会第 21 回大会、東京、2025 年 3 月 1 日．

■三浦　貴大（後期）

雑誌論文（英文）

Matsuo M, Hasegawa A, Miura T, Onishi J, Sakajiri M: Mixed-Ability Game Development via Disabled-Led Inclusive Action Research: Building the Accessible Action Role-Playing Game (RPG) *Planet Saga*. Journal of Technology and Persons with Disabilities, 14, pp. 66-83. 2026. Handle: 20.500.12680/794087292

Onishi J, Matsuo M, Sakajiri M, Miura T: Real-Time Braille Communication Platform for DeafBlind Educational Support: Conceptual Verification in a Single-Participant Study. Journal of Technology and Persons with Disabilities, 14, pp. 170-183. 2026. Handle: 20.500.12680/rv043454p

Tomikawa N, *Miura T, Fukunaga Y, Matsuo M, Onishi J, Sakajir M: Deafblind Inclusion by the Blind: A Case Study on Co-Creating Two-Way Communication Support Schemes. Journal of Technology and Persons with Disabilities, 14, pp. 184-200. 2026. Handle: 20.500.12680/t435gq171

Kitabatake K, Matsuo M, *Miura T, Onishi J, Sakajiri M: Co-designing screen reader-friendly apps by visually impaired developers and users: An interview study. Journal on Technology and Persons with Disabilities, 13, pp. 267-284. 2025. Handle: 20.500.12680/ks65hn77m

市民アウトリーチ・共同創造活動

2025/12/13: 西野亜希子、三浦貴大、中村伸一、吉田紗栄子、直町常容子：公開研究会　視覚障がい者の就労施設～五感活用ですごしやすい自立の場～．NPO 法人就労継続支援 B 型事業所　ひかりの森.

その他（成果のパンフレット、ウェブサイトなど）

ISO/IEC PWI 30071-2: “Information technology — Development of user interface accessibility — Part 2: Code of practice for participatory designing with persons with disabilities.”
（補足：国際標準規格の最初期段階である PWI 提案を日本から 2026 年 1 月に行い，その登録が 2026 年 2 月になされた．本件は，障害当事者を交えた参加型デザインに関する規格である．
※参考：ISO のステージは，(PWI) → NP → WD → CD → DIS → IS 発行 と進む．IS 発行までは概ね 1.5～3 年を要する．）